

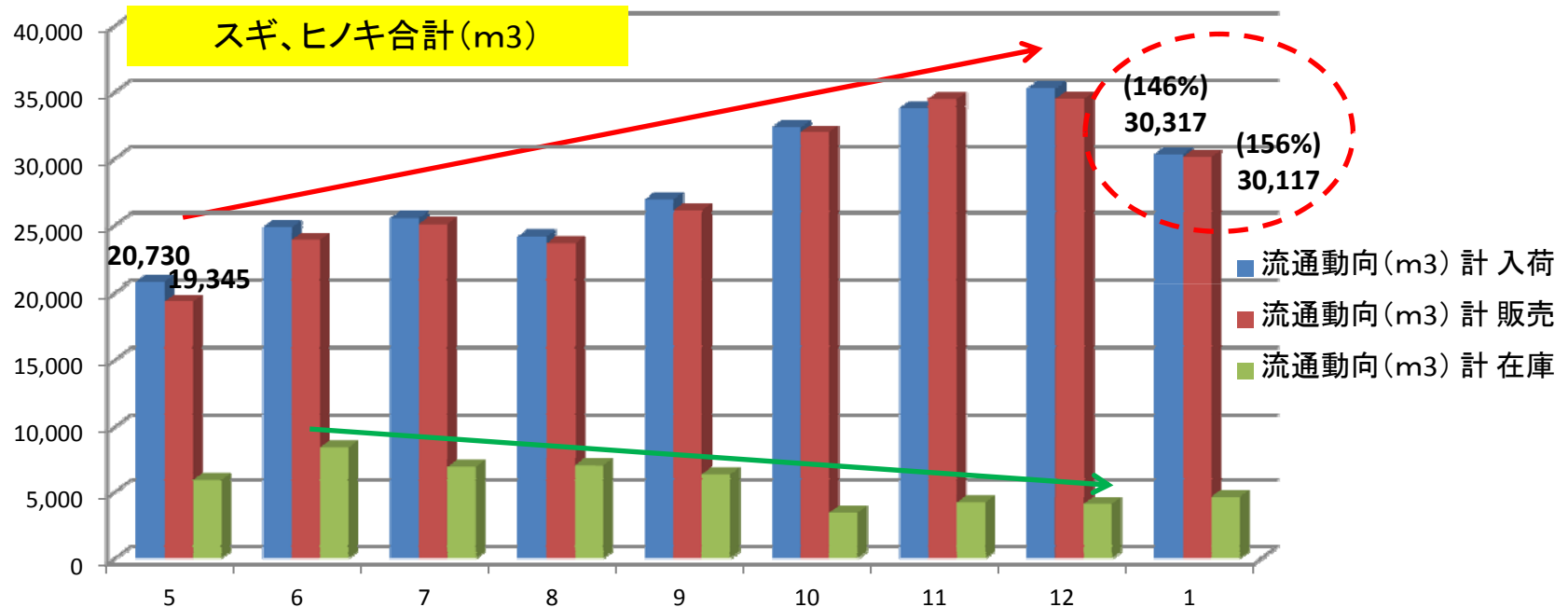
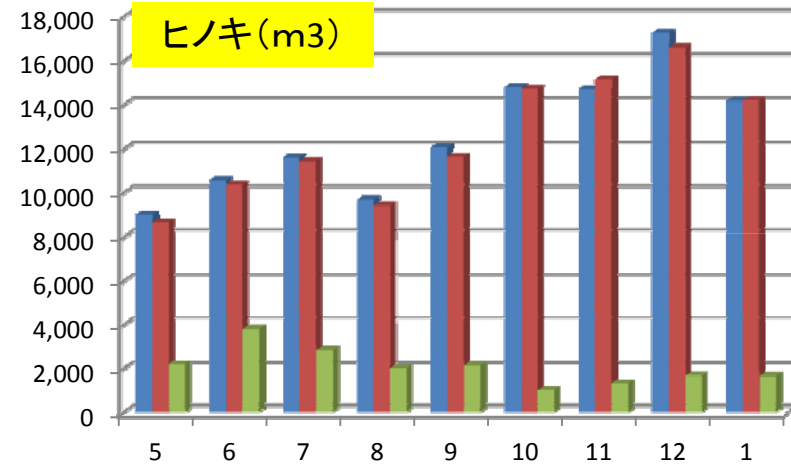
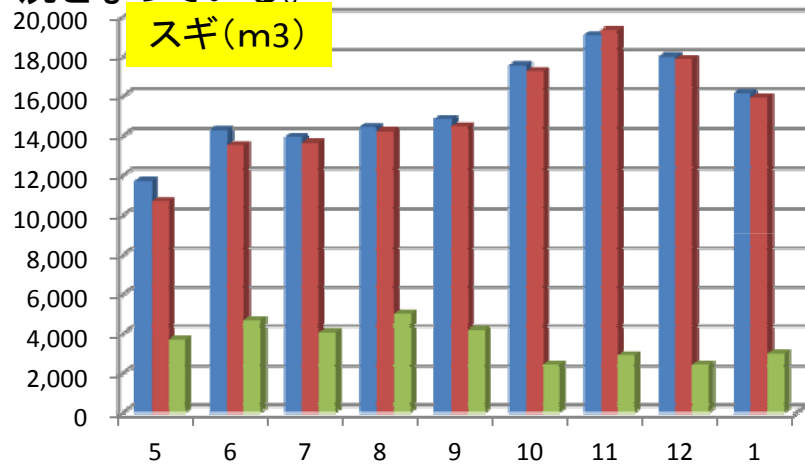
四国管内における製品の需給及び
木材価格動向について

平成26年2月18日(火)

四国森林管理局

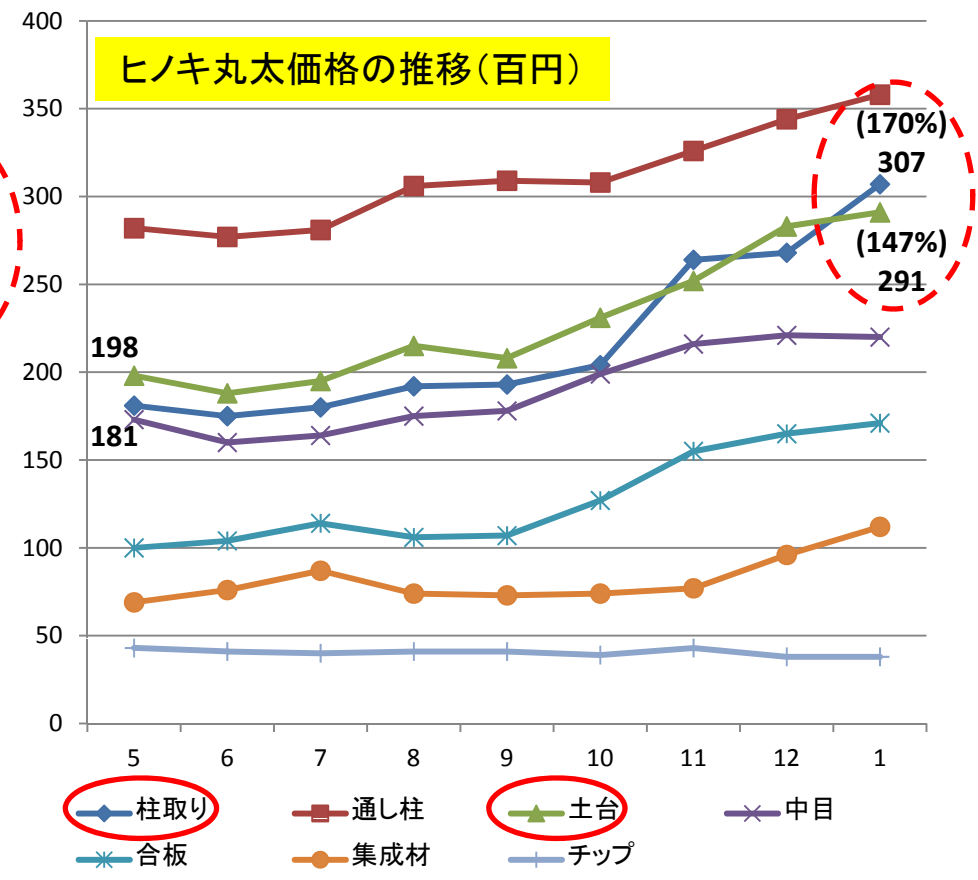
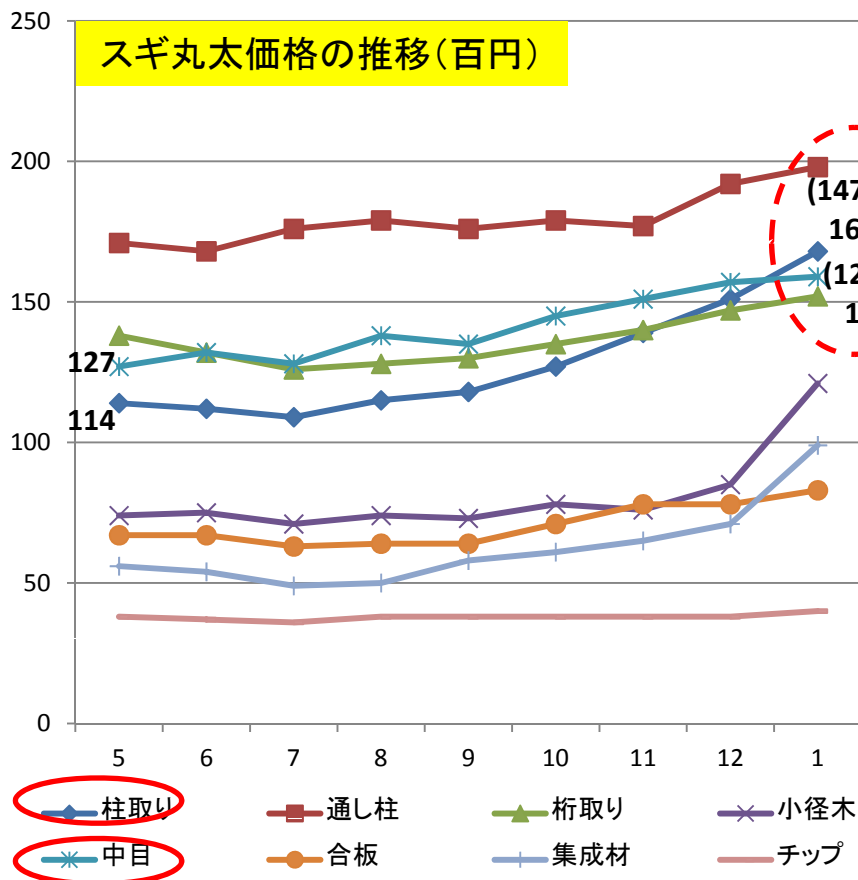
1 四国局管内の国有林材供給市場(10箇所)の平成25年5月～26年1月における素材入荷量、販売量等の推移

昨年(平成25年)の入荷量・販売量は5月以降毎月増加傾向であったが、5月を基準とした場合12月は入荷量170%、販売量178%まで増加した状況となった。1月には若干減少したものの5月比では入荷量146%、販売量156%と依然高い状況。在庫量は6月期より徐々に減少してきたが、1月は12月から横ばいの状況となっている。



2 四国局管内の国有林材供給市場(10箇所)の平成25年5月～26年1月における国産丸太平均価格の推移

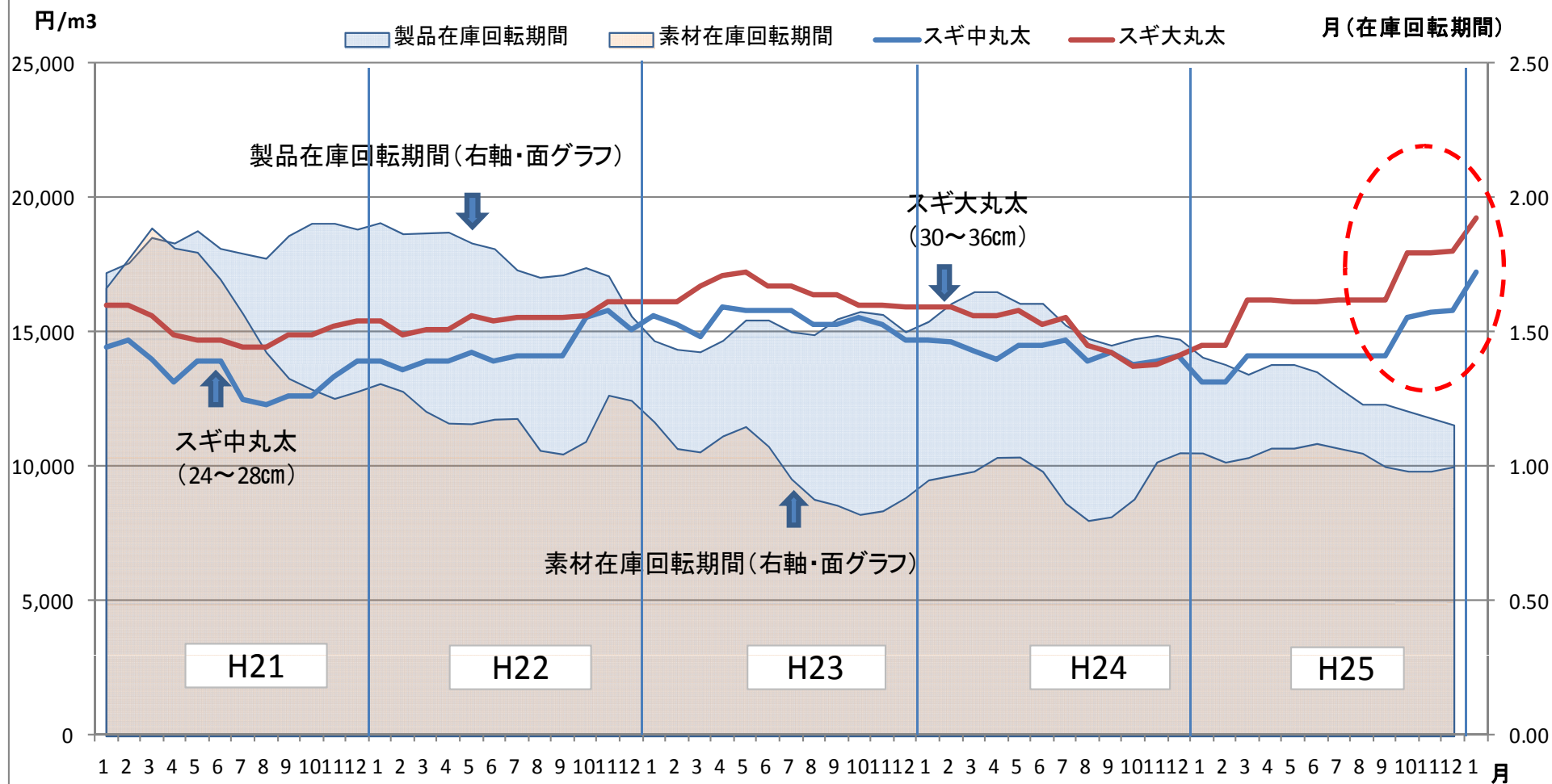
丸太価格は国産材の需要が急増し全国的に上昇傾向の状況で、四国においても全般的に上昇傾向であった。昨年5月を基準とした場合、今年1月の価格は、スギでは、柱取りで147%、中目で125%の状況であり、ヒノキでは、柱取りで170%、土台で147%の状況となっており、一部天井感はあるものの丸太価格は全般的に上昇し高値で推移している。



3-① 徳島県の丸太価格及び製品・素材在庫期間の推移

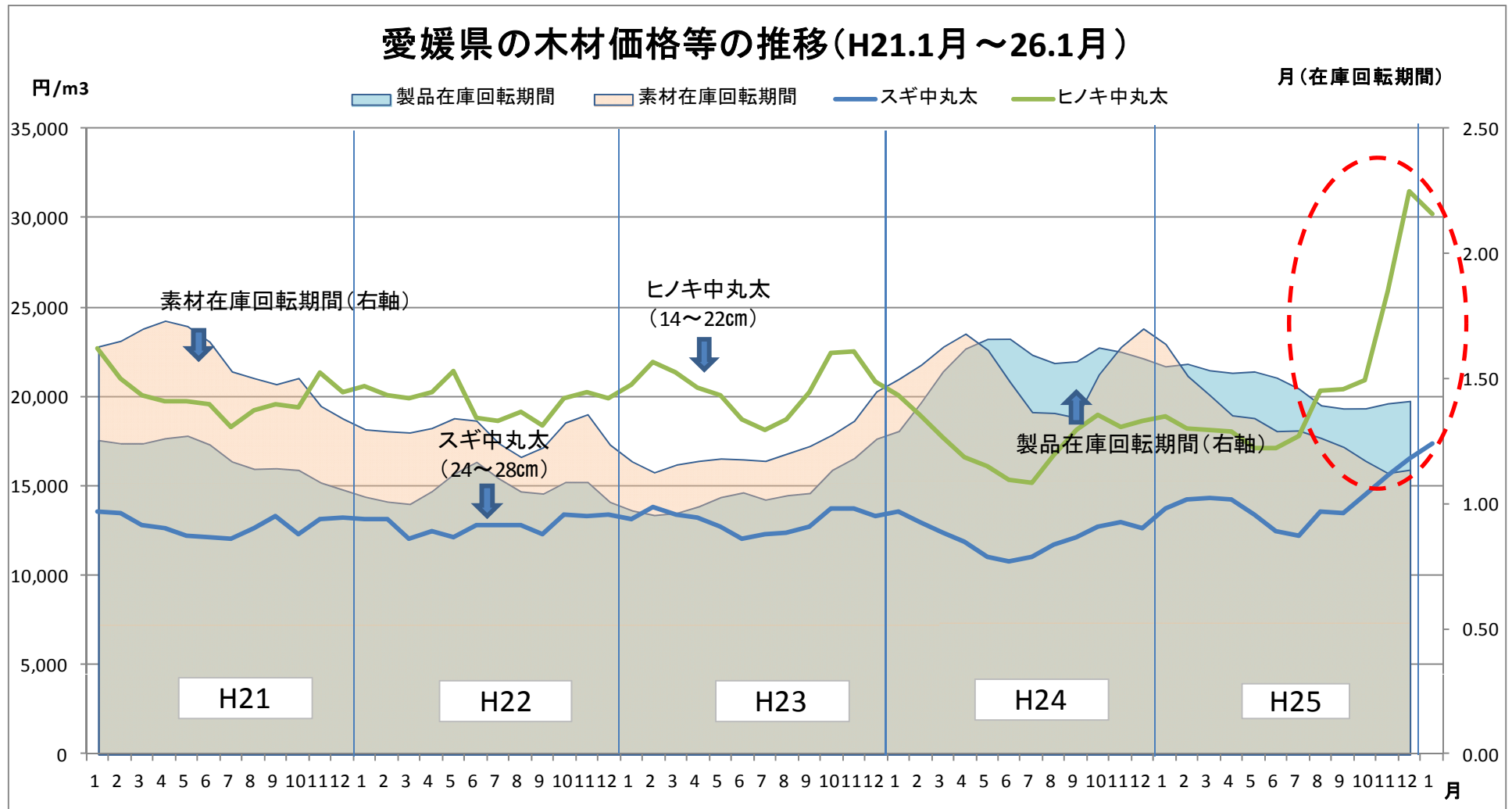
- ・素材の在庫回転期間は横ばい傾向であるが、製品の在庫回転期間は若干の減少傾向で推移。
- ・スギ大丸太、スギ中丸太の木材価格は昨年3月以降横這い、昨年10月に強気値上がりにより転じその後保合で推移してきたが、今年1月は強気値上がりにより転じて、スギ大丸太19,200円/m³、スギ中丸太17,200円/m³。
- ・原木の入荷はスギ、ヒノキとも回復の兆しあるものの入荷量は少ない状態。スギは柱材、中目材とも引き続き好調。

徳島県の木材価格等の推移(H21.1月～H26.1月)



3-② 愛媛県の丸太価格及び製品・素材在庫期間の推移

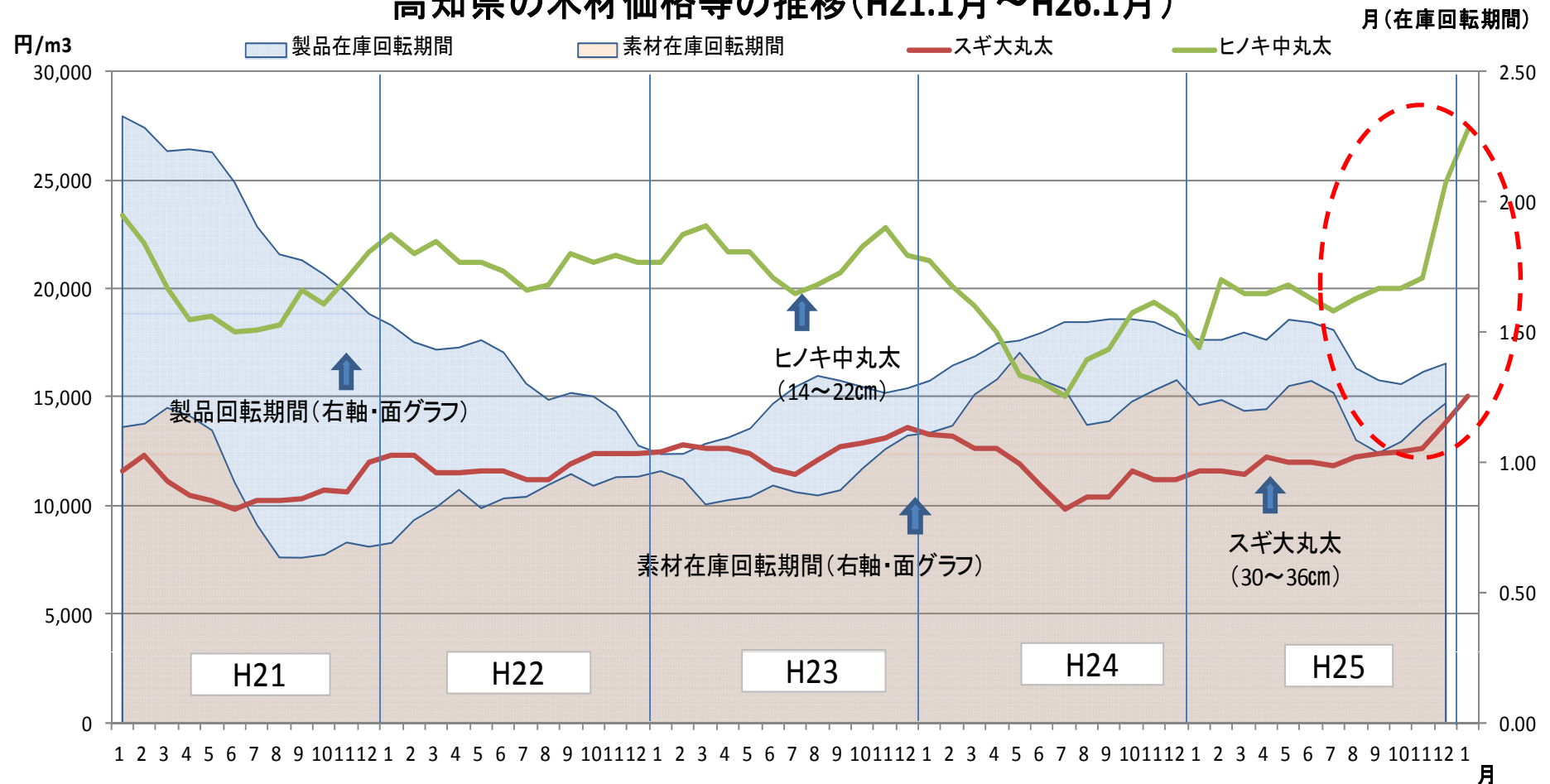
- ・素材及び製品の在庫回転期間は横ばいで推移。
- ・スギ中丸太、ヒノキ中丸太の木材価格は、一昨年は弱保合で推移していたが、昨年8月以降強気値上がりへ転じ、昨年11月にはスギ中丸太は強含み、ヒノキ中丸太は著騰。今年1月はスギ中丸太は17,400円/m³と強保合で推移。ヒノキ中丸太は30,200円/m³と弱保合で推移。木材価格は、一部天井感も出て弱保合の感もあるが、全般に高値を維持したまま横ばいで推移するものと予想。



3-③ 高知県の丸太価格及び製品・素材在庫期間の推移

- ・素材・製品の在庫回転期間は昨年10月以降若干の増加傾向で推移。
- ・スギ大丸太は昨年4月12,200円/m³となり、その後横這いで推移、今年1月は15,000円/m³と強含みで推移。
- ・ヒノキ中丸太は、昨年2月に20,400円/m³まで回復、その後横這いで推移してきたが、昨年12月より著騰に転じ今年1月は27,300円/m³と前月に続き続伸。
- ・木材価格は、一時的に国産材の需要が急増し丸太の引き合いが強くなり小径木まで高値となり、高値を維持したまま横ばいで推移するものと予想。

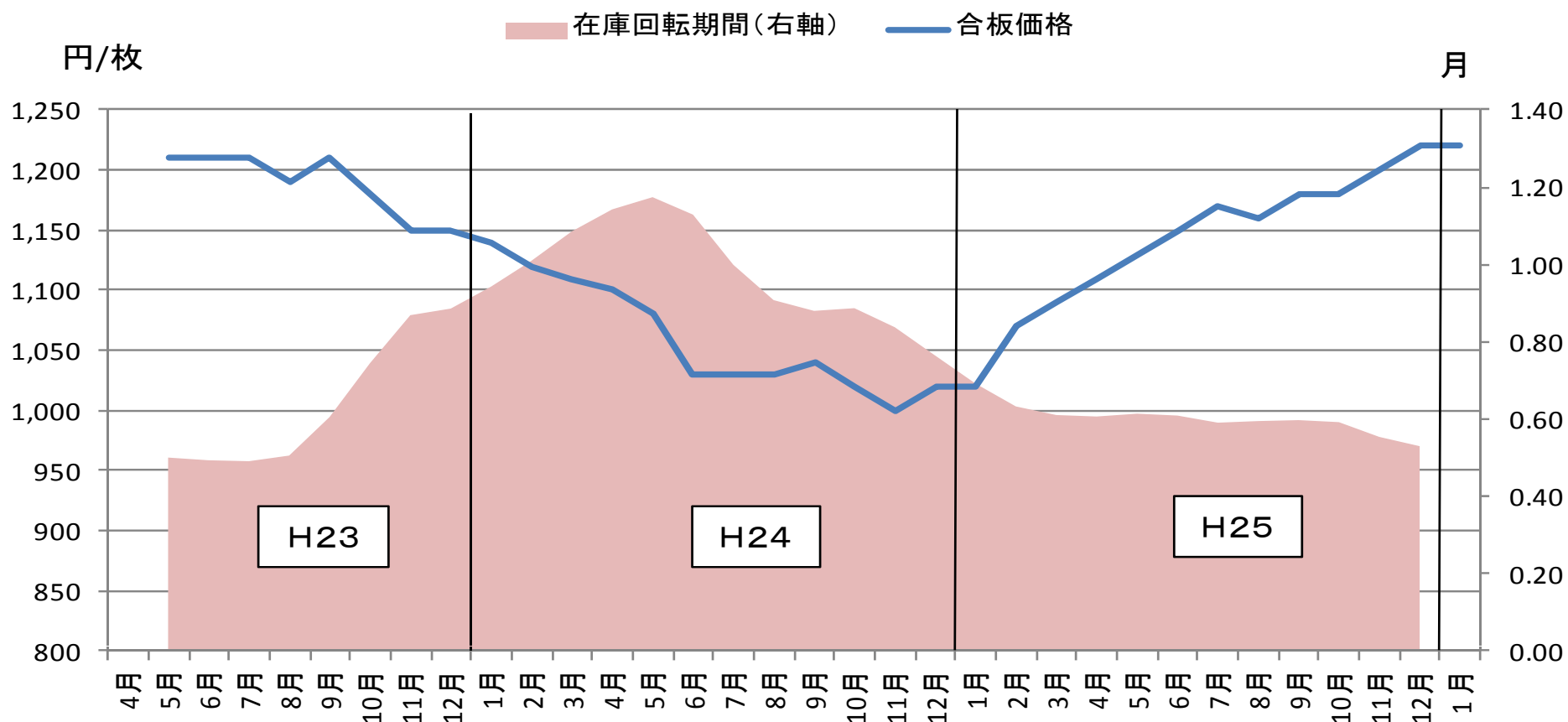
高知県の木材価格等の推移(H21.1月～H26.1月)



4 針葉樹合板の価格及び在庫回転期間の推移(全国統計)

- ・針葉樹合板の在庫回転期間は、昨年2月まで減少傾向にありその後横這いで推移。先行きは、円安も加わり旺盛な需要に支えられ、スギを主体にさらに強い状況であり、在庫量も少なく、メーカーの強気は当面続く模様。
- ・価格は、昨年2月に強含みに転じ昨年12月まで強保合で推移してきたが、1月は1,220円/枚と保合で推移。

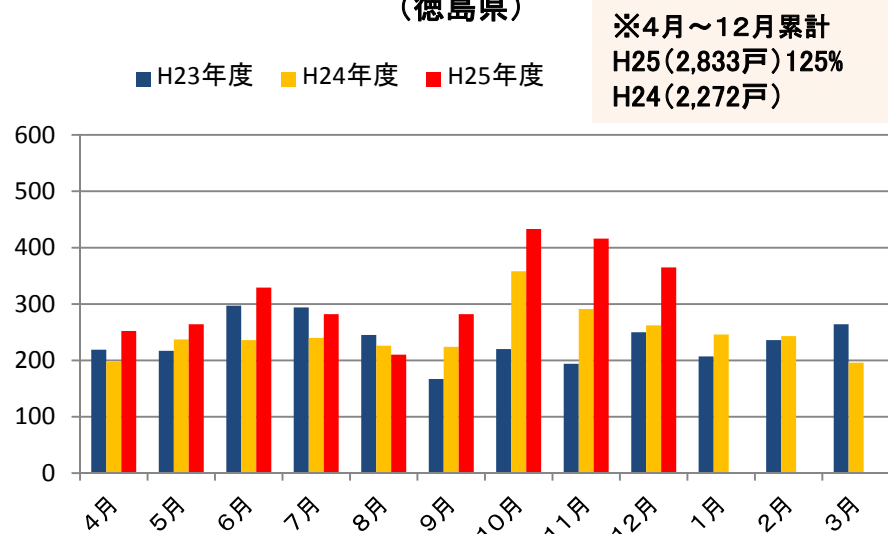
針葉樹合板の価格と在庫回転期間の推移(全国統計)



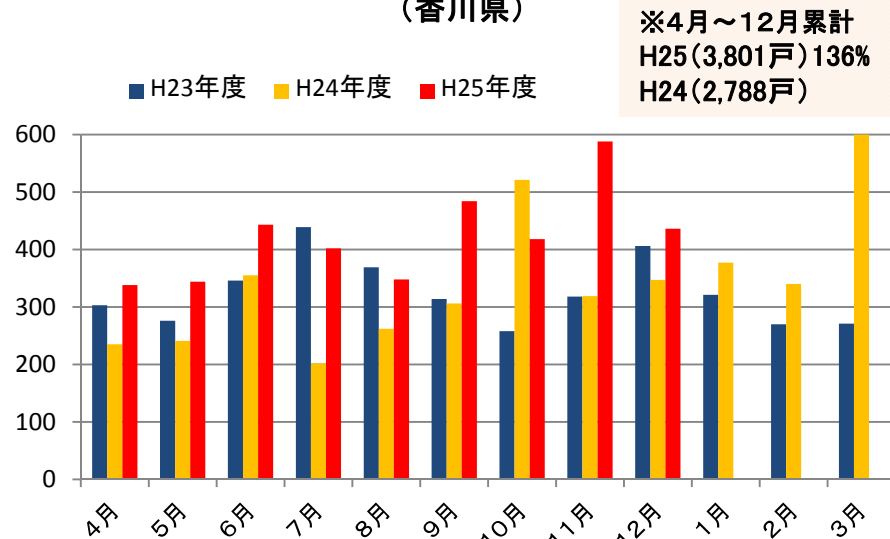
5-① 四国局管内各県の木造住宅着工戸数の月別推移

四国各県の住宅着工戸数の12月累計前年度比では、徳島県125% (2,833戸)、香川県136% (3,801戸)、愛媛県120% (4,761戸)、高知県131% (1,818戸)と、いずれの県においても増加している状況である。

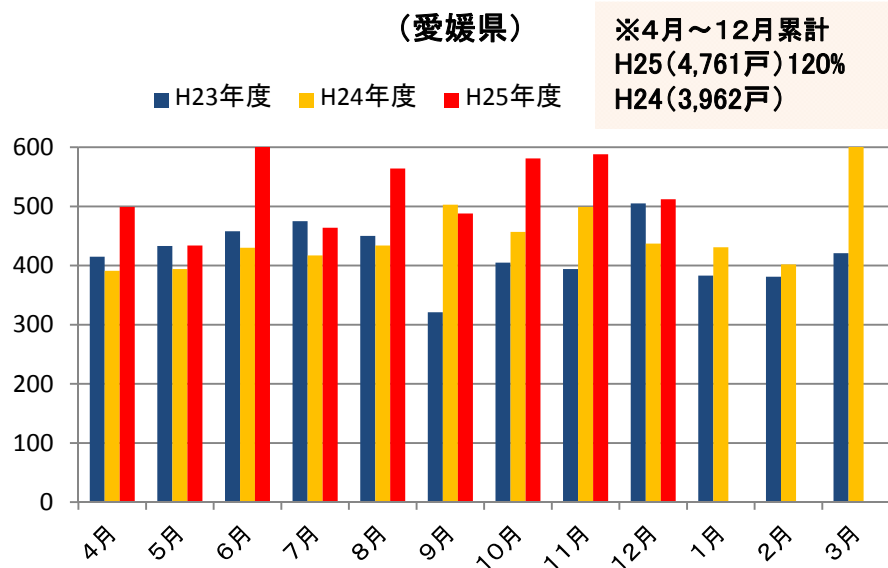
(徳島県)



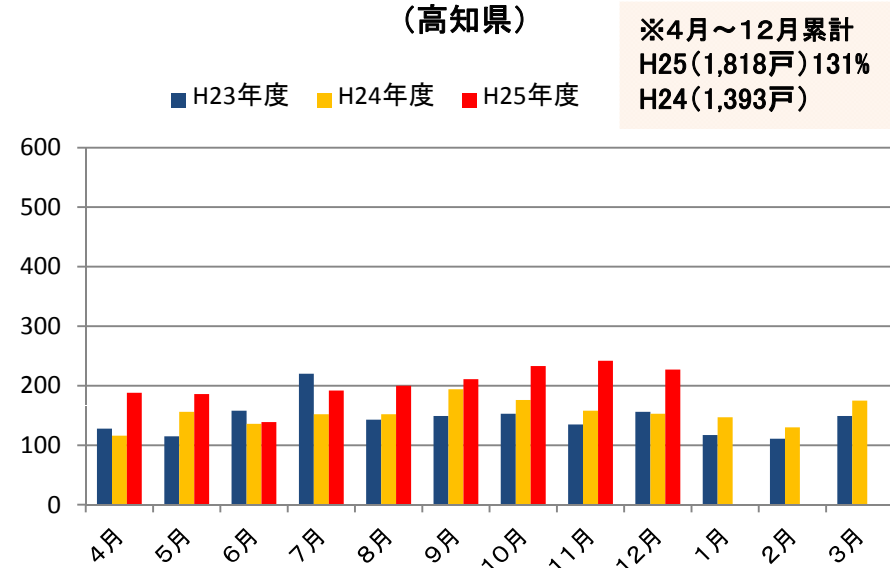
(香川県)



(愛媛県)



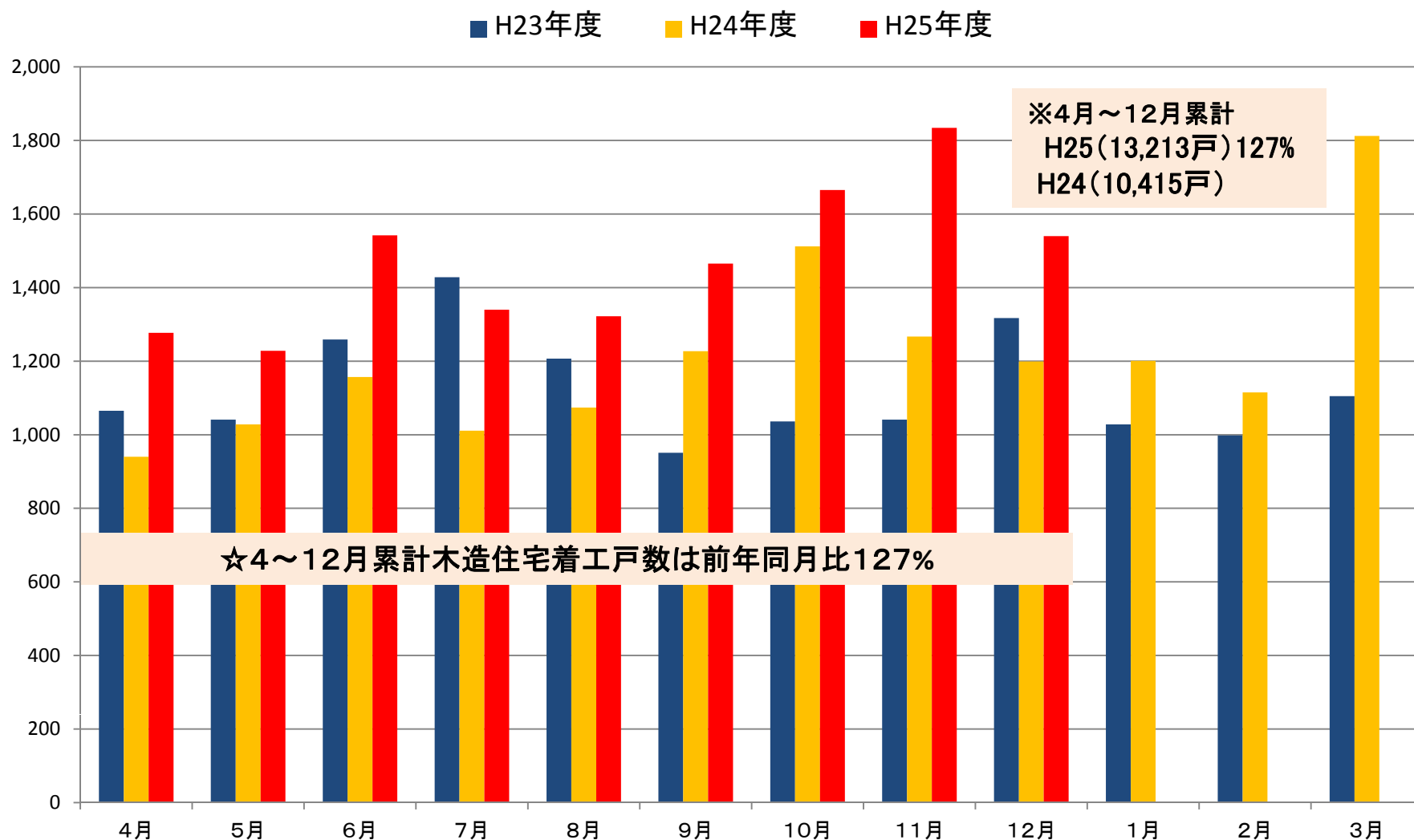
(高知県)



5-② 四国局管内の木造住宅着工戸数の推移

四国全体の住宅着工戸数は、四国各県とも増加傾向であったことから、12月累計前年度比は127% (13,213戸)と上回っており、飛躍的に住宅着工戸数が伸びた状況となった。

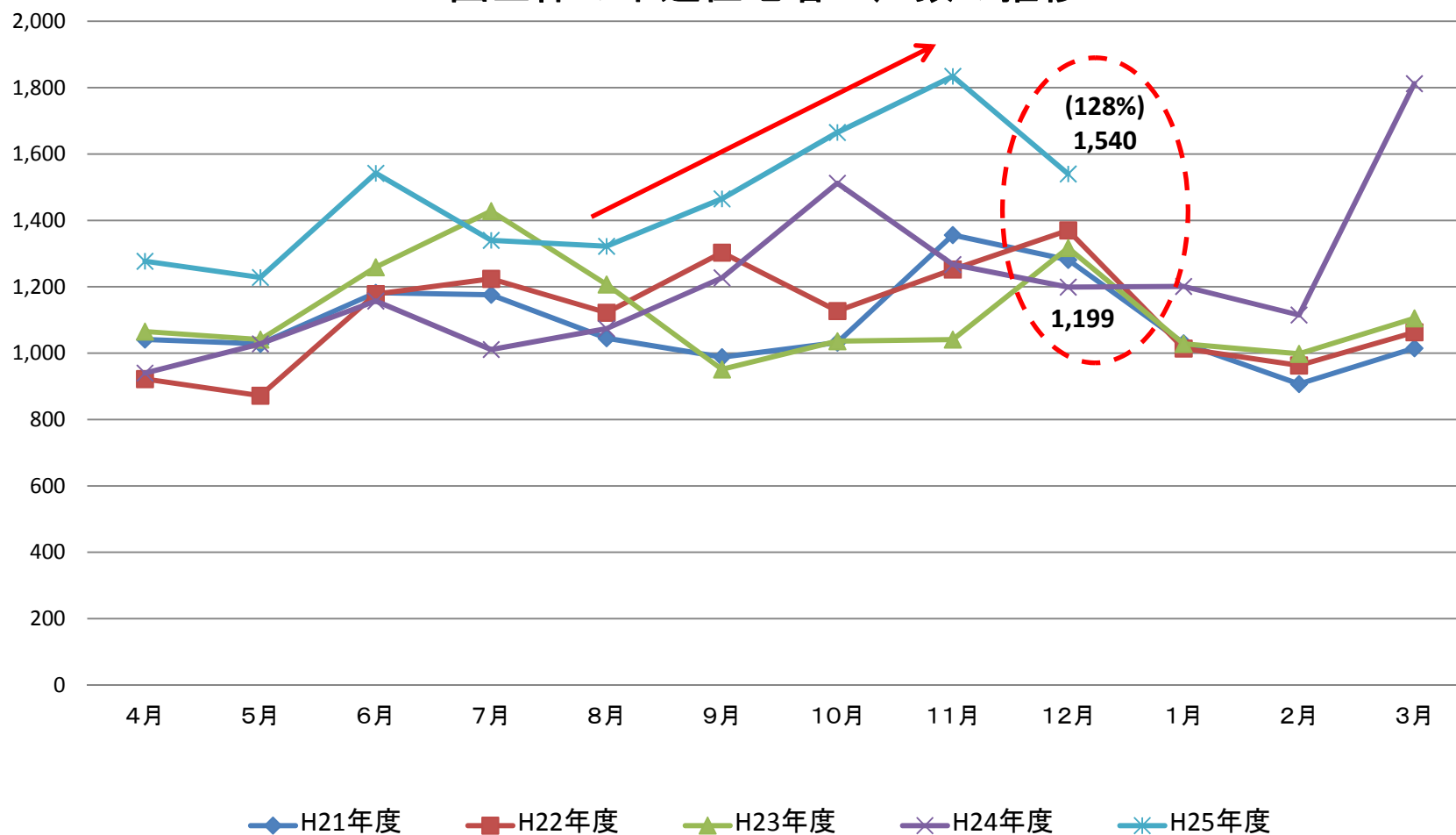
木造住宅着工戸数の月別推移(四国)



5-③ 四国局管内の木造住宅着工戸数の年度別月別推移

年度別の木造住宅着工戸数の推移を見ると、平成25年度は8月～11月の間は毎月増加傾向であったが、12月は11月より減少した状況となっている。しかし、着工戸数は例年になく高い状況であり、昨年同月比で128%と昨年を28ポイント上回る状況となっている。

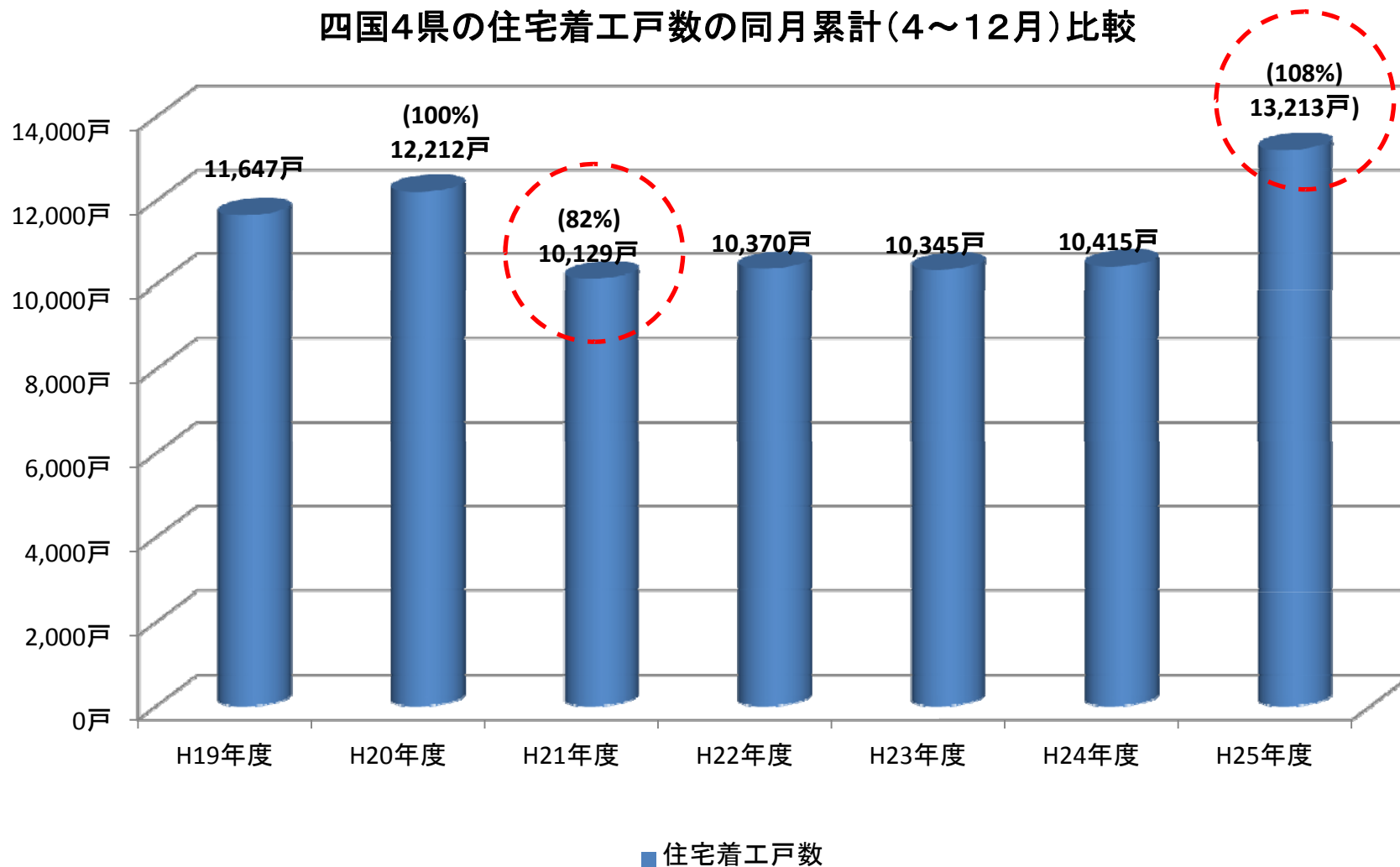
四国全体の木造住宅着工戸数の推移



6-① 四国局管内の木造住宅着工戸数の年度別4～12月累計比較

四国の年度毎の木造住宅着工戸数累計(4～12月)においては、H20年度を基準とした場合、H20年のリーマンショックの影響等から、H21年度は82%(10,129戸)に落ち込み、その後横ばいで推移してきたが、H25年度には消費税増税前の駆け込み需要等により、108%(13,213戸)となり、H20年度を上回る状況となっている。

四国4県の住宅着工戸数の同月累計(4～12月)比較



6-② 全国の木造住宅着工戸数の年別1～12月累計比較

全国の木造住宅着工戸数についても、H20年を基準とした場合、H20年のリーマンショックの影響等から、H21年には72%(788,410戸)と大きく落ち込み、その後徐々に増加傾向であったが、H25年には、消費税増税前の駆け込み需要等により、90%(980,025戸)程まで回復した状況となっている。

全国住宅着工戸数の推移

